

定置網からクロマグロを逃がす先進事例を学ぶ

現在、クロマグロは国際的な資源管理が行われており、漁獲量が制限されていることから、静岡県定置漁業協会（以下、定置協会）は、県の「水産イノベーション対策事業」を活用して、定置網に迷入したクロマグロを効率的に網外に逃がす体制や手法の開発を行っています。

この技術に関する情報収集を目的として、定置協会役員は、令和2年10月23日に石川県かほく市の製網会社ホクモウ(株)を視察しました。視察では、同社が石川県や大学と研究開発を進めている定置網内のクロマグロを捕獲して逃がす網や、船上でクロマグロと他の魚種を分ける選別台について説明を聴き(写真1)、併せて製網作業現場等も見学しました(写真2)。参加者は担当者の説明を熱心に聞いており、同社が開発中の機器の長所・短所、扱いやすさ、現場導入時の課題等について意見交換がなされました。定置協会は今回の視察を振り返り、「視察はクロマグロの放流方法等を研究・検討する上で参考になったが、タモ網による放流の方がより効果的ではないか」と考えており、クロマグロ放流用タモ網開発に向けた熱意を感じました。



写真1 先進事例を聴講する参加者

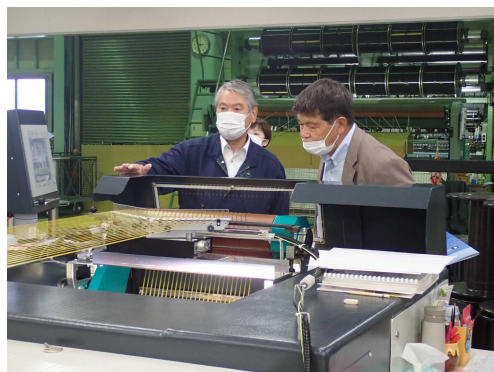


写真2 製網現場の見学

(鈴木勇己)